

カトリック

新潟教区報



2024年のはじめにあたり

新潟教区司教 パウロ 成 井 大 介



に進めるステップです。

普遍的で、不変で、変化する教会

「カトリック」とは、「普遍」という意味です。それは、何より、イエス・キリストによって招かれ、一つにされた共同体だから普遍的なのです。2000年の歴史のどの場面であつても、世界のどこであつても、わたしたちはキリストによってつながる共同体です。

同時に教会は、どんなに背景や文化が違って、どんな罪人であつても、すべての人が例外なく招かれていくという意味でも普遍的なのです。

この二つの意味で、カトリック教会は、その始まりから現在に至るまで、キリストの福音を生き、それを伝えるという不変の目的のために、様々な違いを受け入れ、組織体制や規則、活動の手段を柔軟に変化させてきました。わたしたちも、今の時代によりふさわしく目的に向かっていくために、変化するよう招かれています。

変化への柔軟な対応

ここで注意しなければならないのは、わたしたちは通常、新しい状況を作り出している人々がこれまでのやり方にあわせるという意味で変化という言葉を使えがちだということです。しかし、当然ですが、社会や

教会を取り巻く環境を教会にあわせるということとは現実的ではありません。例えば、日曜日仕事や学校で忙しい大人や子どもに、毎週日曜日に教会に来るように言っても、できる人とはできない人がいるでしょう。しかし、日曜日に教会に来ることができないことは、決して「教会から離れた」ということではありません。皆が、様々な形で、様々な場面で、互いにつながって、大きな教会共同体を形作っているのです。そのような意識を持って、柔軟に教会活動に取り組みでいけたらと願っています。

ともに歩むために

そのための道具として、宣教司牧方針と、新しい地区割りとその役割はありますが、道具として生かすためには、宣教司牧方針にあるように、聖霊の働きに信頼してともに歩むことが大切です。昨年行われた第16回シノドス総会第1会期は、「霊における対話」の手法に基づいて行われた会議でした。参加者皆が、対話の主役が主であることを意識し、祈りのうちに心を開き、対話を「ともに主に耳を傾ける」手段として行うのです。今年、新潟教区でもこの「霊における対話」を様々な場での識別のために活用していきたいと考えています。また改めてお知らせいたしますが、この対話について『世界代表司教会議第16回通常総会「討議要綱」』の32項から42項で説明されていますので、ぜひ中央協議会のウェブサイトで（QRコードあり）読んでみてください。

違いを大切に

宣教司牧方針でも、シノドスでも、度々「ともに歩む」「一致する」ということが言われます。これは決して、様々な違った背景を持つ人々が、違いをなくして、同じようになつていきましようということではありません。様々な違いを互いに受け入れ、違いから学び、互いに変化し、豊かになっていきましようということなのです。三位一体の神の愛の交わりに倣つて、わたしたちの歩みを進めていきましょう。

司祭人事

1月2日付

《山形地区》

▼米沢教会・長井巡回教会 小教区管理者（山形教会・新庄巡回教会主任兼任） スリ・ワルヨ師（山形教会・新庄巡回教会主任）

▼イエズス・マリアの聖心会
▼サバティカル
マルティヌス・パリヤント師（米沢教会・長井巡回教会主任）

▼イエズス・マリアの聖心会



中央協議会
ウェブサイト

令和6年能登半島地震

「地震発生19日目の被害状況より」



の損壊が5、340棟に上っています。住宅被害件数は日々大幅に増えており、特に液化現象が激しかった新潟市西区では全容の把握に時間がかかっているようです。また、上越市では津波による床上浸水被害もありました。

こうした状況の中、新潟県内の教会と関連施設は、把握できている限り人的な被害はなく、物的にも大きな被害を免れました。現段階で受けた物的被害の報告は、聖像、棚や花瓶の転倒や破損、建物壁や床の一部破損、教会周辺の地盤沈下などとなっています。

被害がそれほどでもなかったにしても、信者を含む多くの世帯で棚が倒れて中の食器や本が散乱するなど、状況が発生しました。ご高齢や病氣などで掃除や復旧が難しい方もおられたかと思えます。宣教司牧方針の一つにもあるように、このようなときこそ助け合いの精神を持って、声をかけ合って歩いていけたらと思います。

石川県の状況

わたしは司教団のカリタスジャパンと復興支援室に関わっている関係で、震災直後から名古屋教区長の松浦悟郎司教様と連絡を取り合い、1月7日に石川県の七尾教会、輪島教会、1月8日に金沢教会を松浦司教様、名古屋教区関係者、司教団関係者と訪問いたしました。報道されているとおり、道路が割

れて隆起、陥没、崩落していたり、土砂崩れや落石で塞がっていたりしており、大変な状況でしたが、道路工事の業者や自衛隊、警察、消防が協力して復旧にあたっており、次々と道路が開通していっていました。しかし、地盤が緩んだ山肌が雨によって崩れたり、雪によって道路の割れが見えなくなると通行が困難になったりと、新たな困難も発生していました。

わたしたちは七尾教会、輪島教会に付属する幼稚園を通して、園児や保護者、近隣の関係者にわずかでも支援物資を届け、また状況を伺いました。ライフライン、特に断水が生活を困難にしていますが、ガスはプロパンで、七尾では電気はすでに来ていました。輪島教会は丘の上に建っているのですが、その丘の下までは電気が来ているとのことでした。七尾教会の幼稚園は、できるだけ早く幼稚園と学童を再開させるため、準備に忙しくしておられました。このようなとき、子どもを預け



ることができると親は家、近所、職場の復旧に集中できるため、幼稚園や学童の再開はとても大切なのです。それにしても、こうしたときに感じるのには、足りない物資の支援はもちろんだ切実なのですが、人を思う気持ちや、人とともにいることがどれほど生きる勇気を生み出すのか、ということなのです。生きるのに必要なも

今年の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」

（三月二日に向けて）

教皇フランシスコは二〇一六年に「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を定め、被害者に許しを請い、償いをするよう呼びかけられました。日本の司教団はこの呼びかけに応え、毎年四旬節第二金曜日を「性虐待被害者のための祈りと償いの日」と定め、二〇一七年から取り組んでいます。

今年三月一日金曜日です。新潟教区ではこれまで「性虐待被害者のための祈りと償いの日」当日や直前直後の主日にすべての小教区、修道院でこの意向のためにミサを捧げ、ミサの中で全員で「新潟教区ハラスメント防止宣言」を行い、被害者のための祈りを捧げてきました。今年も間もなく成井司教様からメッセージが発表される予定です。

新潟教区では二〇一七年に「ハラスメント対応委員会」が設置され、昨年度は、次のような活動に取組んでまいりました。
・「ハラスメント相談窓口」の設置と対応（毎週火曜日継続中）

のがあるということ、生きる歩みをもにしている人がいること、どちらも欠かすことのできないことだと思いが知られます。
わたしたち新潟教区は、隣人として、祈りと愛のわざで復興の歩みに寄り添っていきたいと思います。具体的には、また教区カリタス委員会を通してお知らせいたします。
司教 成井大介

・意識調査結果に基づく小教区評議会での分ちあい実施のお願い
・ハラスメントに関する意識調査の結果の集約と教区報での公表
・司祭の集いでハラスメントに関する研修、分ちあい（今後も継続）
一人ひとりがお互いの立場を尊重し、皆で分ちあい、よりよい共同体を築くための活動を続けてまいりましょう。
（新潟教区ハラスメント対応委員会）

ひとりで悩まず
わたしたちにご相談ください
カトリック新潟教区
セクシャル・ハラスメント相談窓口
司祭・修道者による未成年者性虐待とセクシャル・ハラスメントについての窓口です
TEL 080-8912-8758
受付 毎週火曜日 13:00~14:00
(除く祝祭日)

秋田県、山形県、新潟県に広がるカトリック新潟教区では、ベトナム人、特にベトナム人信徒は関東・関西・東海地方ほど大勢ではありません。しかし、教区内のあちこちの教会に彼らの姿が見えてきます。言語という壁は存在していますが、何らかの形で彼らは小教区の司祭をはじめ日本人信徒の共同体に一所懸命に交流しながら、ベトナム的な信仰の表現をもって関わろうとしています。

日本各地においての外国人司牧は新しい課題ではありません。特に、1975年のベトナム戦争終結以降にボートピープルと呼ばれる人々が亡命、または出稼ぎなどといった様々な理由で、小型船で国外に脱出しました。日本におけるカトリック教会も難民のために、積極的にそれなりの司牧をしてきました。そのお陰で、今日彼らは日本において家族や本人の安定生活の基盤を築いていくことが出来ました。

その実態を受けた新潟教区司教様がベトナム国籍の信徒を含む外国人司牧に配慮してくださいました。彼らの世話のため、秋田県では大館教会の助任司祭グエン・タン・ヒー神父様を、そして山形県と新潟県にはわたしを任命して下さいました。任命の趣旨は、ただ定期的にあちこちの小教区にてベトナム語のミサや諸秘跡を執行するだけに限られず、言

す。各小教区の主任司祭と信徒の方々も最大の努力で彼らを共同体に受け入れ、ゴミサへの参加だけでなく、信徒会館の使用なども開放し、活動のための居場所を提供してくださいます。彼らの地元出身教会では、教区の司教様との接する機会と言うまでもなく、大事なことがなければ主任司祭にもあまり近づかない彼らが、日本で司教様をはじめ、神父様たちとの出会いはベトナム出身信徒にとっては新鮮な経験の一つだと言えるでしょう。

語の通訳をはじめ何か助けが求められる時に可能である限り彼らを助けるよというものです。また教区の宣教司牧方針に沿って、豊かな多国籍の共同体を目指しながら、あちらこちらに独立的なベトナム出身の小グループを作らず、むしろ関わりを保ちながら、彼らを小教区の共同体に参加させるよう司牧者のわたしたち自身が、架け橋となるよう求められます。

秋田、山形、新潟では、寒い気候に慣れずらく、車を持っていない不便などで実習生や労働者たちは3年か5年の労働契約の満了後、ほとんどは帰国するか、または他の地方に移動することはよくあることで



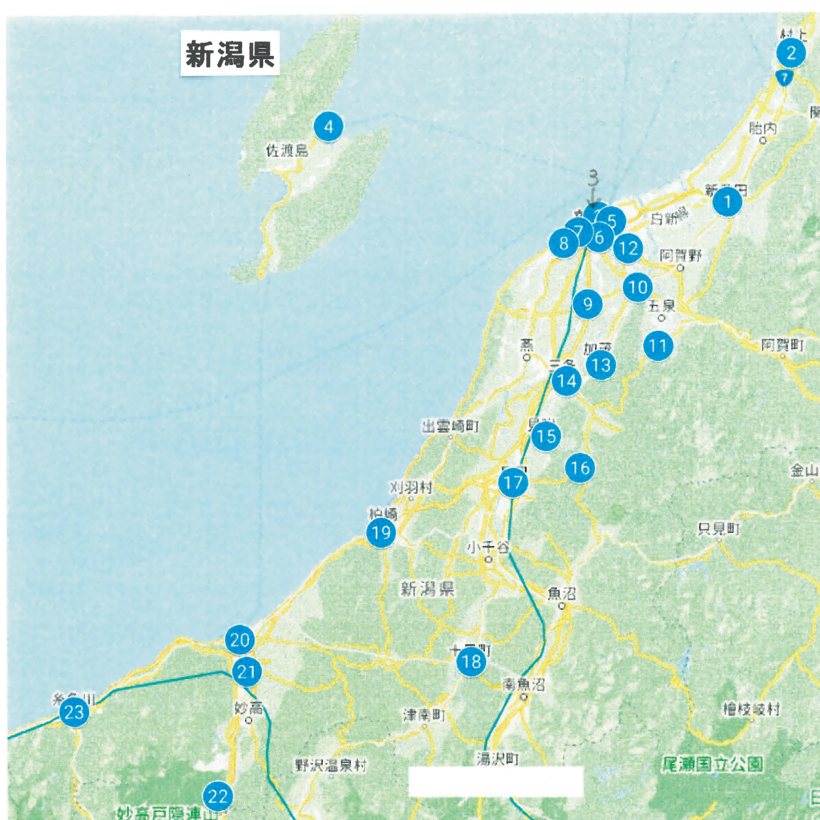
新潟教区での /

新しい出会いと体験



新潟教会協力司祭
トウ・ダン・フック神父

昨年5月に新潟教会協力司祭として着任され、ベトナム国籍の信徒を含む外国人の司牧にかかわっておられます。

新潟教区地区割表

(2024年4月1日より実施)

新潟教区の地区割が変更されました。秋田地区、山形地区については変更ありません。新潟県の3地区が変更され、新たに下越、中越、上越地区として再編されました。ここに新潟県の変更のみ掲載し、お知らせいたします。

上越地区	中越地区	下越地区
⑱ 十日町教会	⑬ 加茂教会	① 新発田教会
⑲ 柏崎教会	⑭ 三条教会	② 村上集会所
⑳ 直江津教会	⑮ 見附教会	③ 新潟教会
㉑ 高田教会	⑯ 栃尾教会	④ 佐渡教会
㉒ 妙高教会(巡)	⑰ 長岡教会	⑤ 花園教会
㉓ 糸魚川教会		⑥ 鳥屋野教会(分)
		⑦ 青山教会
		⑧ 寺尾教会
		⑨ 白根教会
		⑩ 新津教会
		⑪ 村松教会(巡)
		⑫ 亀田教会

秋田地区殉教者400周年記念式典について

ヨハネス・バプテスタ・デ・ラサル 渡部良典

元和10年(1924年)秋田地区(当時久保田藩)において13歳を含む32人の信徒が火刑にて、「我らを憐れみ給え、主よ、我らを憐れみ給え」と唱えながら殉教を遂げました。その後処刑された信徒を含めた殉教者の総数は115名ともいわれています。カトリック秋田教会では7月18日を殉教の日とし、例年敷地内にある石碑に信徒が集まり祈りを捧げてきましたが、本年2024年は400年目にあたることから、秋田地区として記念の式典を行い殉教者の霊を偲び感謝を捧げることにしました。

秋田地区における切支丹の殉教については、『カトリック生活』2023年11月号に「北の殉教地をたずねて」として特集が組まれていますのでご覧になった方も多いかと思いますが、その前文が当時の状況を簡潔に述べています。「東北地方でキリスト教が広まったのは、1600年(慶長5年)の関ヶ原以降である。徳川幕府の支配体制を固める秀忠によってキリシタン弾圧は強化され、長崎をはじめとする西国や、京、江戸の周囲では取り締まりが厳しくなっていたが、東北地方の場合、慶長年間にキリシタンが増えていったのである。」(9頁)

会としたいと願いながら準備を進めています。400年というのは決して短い歴史ではありません。むしろ伝統として受け止めるのに相応しい年月とも言えます。先人の信仰を、現代を生きる信徒と共有することにより、次世代に伝える契機となることを祈っています。

記念式典は2024年9月29日(日)を予定しており、成井大介司教様から祝辞を頂いた後、川村信三神父様(イエズス会)の記念講演が続きます。新潟教区の信徒の方々にもお声がけをすることも検討しましたが、初めての試みでもあり、規模を大きくすることにより予想できない困難等が生じる可能性があることも案じられ、今回は秋田地区の各小教区の信徒でお祝いをするにとしました。今後機会を求めてより多くの方々と共有できるようにする所存です。その一環として、式典をYouTubeで配信し新潟教区の皆様にもご覧頂けるよう検討を進めているところです。また、実施後は記念誌を発行し多くの信徒の皆様へ配布する予定です。詳細につきましては改めて皆様にお伝え致します。最後に、「秋田殉教者の祈り」を紹介いたします。これは秋田教区の信徒がミサの中であるいは様々な機会に唱えている祈りです。

訃報

ペトロ西村光世神父 (新潟教区)



秋田市内の高齢者施設で静養されていましたが
2024年1月3日、老衰のため帰天。94歳。

略歴
1929年1月12日 北海道に生まれる。
1959年3月18日 司祭叙階
叙階後は青山教会の前身である聖園病院聖堂付司祭や村松教会担当司祭として奉仕した。
1987年11月～ 聖体奉仕会付司祭

☆葬儀は聖体奉仕会において会員とともに別れのミサを捧げ、火葬の後、2024年1月9日新潟司教座聖堂にて教区司祭団による葬儀ミサと告別式が執り行われました。



秋田殉教碑

仰のために死に至るまで苦しみを、耐え忍んだ殉教者たちを、御約束のごとく御子イエス・キリストの死と復活にあずからせ、聖人の列に加えてください。私たちも殉教者たちの祈りに支えられて、あなたの愛のために、あらゆる困難に耐え、力を尽くしてキリストを証しすることができそうですように。私たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

新潟教区の皆様、どうぞともにお祈りくださいますように。

2024年 新潟教区会議・集会等日程 (2024年1月1日現在)

○顧問会日程		
3月26日(火) 13:15~		新潟司教館
6月4日(火)		司祭の集い会場
9月2日(月)~3日(火)		場所未定
11月25日(月) 13:15~		新潟司教館
(東京教会管区代表者会議 6月18日(火)~19日(水))	担当	さいたま教区)

○司祭会議・司祭の集い等日程		
司祭評議会	3月26日(火) 15:30~ 3月27日(水) 昼食	新潟司教館
聖香油ミサ	3月27日(水) 10:00	司教座聖堂
宣教司牧評議会	4月29日(月) 祝日 10:00~15:00	新潟教会センター2F
司祭の集い	6月3日(月)~ 5日(水)	秋田県横手市で開催
司祭評議会		新潟司教館

○集会等		
米沢殉教祭	7月7日(日)	
さいたま教区・新潟教区司祭合同黙想会	9月23日(月)~ 9月27日(金)	中軽井沢
秋田殉教400年祭	9月29日(日)	
新潟教区保育者研修会	10月19日(土)	万代シルバーホテル(新潟市)

訃報

ヴィアンネ南雲正晴神父 (フランシスコ会)



2017年4月から2021年3月まで高田、直江津、糸魚川教会の協力司祭として奉仕してくださいました南雲神父様が、2024年1月7日瀬田修道院において老衰のため帰天。79歳。

略歴
1944年10月30日 群馬県に生まれる。
1974年12月21日 司祭叙階
叙階後、群馬県・太田教会、東京・田園調布教会で司牧後、ローマに留学、聖アンセルモ大学で典礼学を学び帰国。東京・聖アントニオ神学院、カトリック神学院などで教授されたほか、典礼委員会のメンバーとして日本の典礼の改定作業などに携わった。